

ようこび

2025.9.20 第146号

年金局・「隠退教師を支える運動」通信

神に感謝

三枝道也
三枝 育代



三枝道也先生と三枝育代先生

三枝道也は、他教団の牧師であつた両親のもとに8人兄弟の長男として生まれ、高校3年で受洗、大学卒業後、当時所属していた神学校へ進み、卒業後22年間その教団の教会を四ヶ所伝道牧会致しました。その後、日本基督教団に教師転入させていただき36年間、四つの教区で六つの教

全国の皆様の尊いお祈りとご献金、日本基督教団年金局の尊いお働きにより、隠退教師の生活が支え、守られています。現在は、宮崎市に住まい、宮崎清水町教会の礼拝や祈祷会に出席いたしております。

日々の歩みの中で、毎朝、「ここを高くあげよ」（讃美歌21の18番）と賛美しつつ、家庭礼拝と祈りの時を大事にしております。夕べには夫婦

会に招聘され、妻育代と二人で伝道牧会に当たらせていました。現在、隠退して七年が経ち、宮崎の地で日曜

で、長年続いている散歩を（最近は無理のない程度に）楽しんでおります。それ以外は週三日のデイサービスや月二回のショートステイを利用しています。89歳を迎え、新しい環境に慣れ親しみ、子どもたちの助けもいただきつつ「わたしとわたしの家は主に仕えます」（ヨシュア記24章15節）を座右の銘に、日々感謝しつつ、生活させていただいております。

三枝育代は、今年で91歳になります。キリスト教との出会いは、戦後のことです。複雑な家庭環境、特に父親のことでつらく、憎しみを抱えて歩んでいました。そんな時に

日々の歩みの中で、毎朝、「ここを高くあげよ」（讃美歌21の18番）と賛美しつつ、家庭礼拝と祈りの時を大事にしております。夕べには夫婦

歩行中、小松川教会の看板にぶつかったことがきっかけで行くようになりました。求道中「敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい」(マタイ5章44節)との聖書のみ言葉はつらかつたです。しかし心が荒れ、喜びや笑いが消えていた私は、教会で「私をお救いください、私の汚れた心を清くしてください」と祈っていました。そして十字架の神の愛を知った時、私は生まれ変わりました。

した。どの年代も全力投球させていただき、魂の救いの大喜びに共に与からせていただきました。

伝道師として主任と共に主に主に用いていた時代、主任牧師として主に用いていた時代、そして、道也牧師と共に用いていた時代。これら全てが美しく喜びの時でした。二人とも隠退した今、静かに走馬灯のように過ぎし日々を思い起こし、夫と共に主を賛美しています。

「隠退教師を支える運動」

第2回新任推進員研修会を開催しました

2025年7月18日（金）
に、2023年8月以降に当
運動の「推進員」になられた
方を対象にした新任推進員研
修会を開催しました。当運動

2回目の推進員研修会であり、対面・Zoom併用で、



「天にいます神に感謝せよ。
慈しみはどこしえに」（詩編

「新任推進員研修会に

慈しみはどこ

(わくわく みちなり
わくわく こころ)

東海教区推進員 新庄 田鶴子 淳子姉、八嶋由里子姉、五味優子姉の皆様がこの運動の理念と参加への呼び掛けをされてきています。

毎年行われる東海教区の婦人研修会では、プログラムの中に「隠退教師を支える運動」担当者からの感謝と報告の時間が予定されています。宮澤



新庄 田鶴子 さん

会場でただ聴いている立場から一転、2024年4月に八嶋由里子姉から欠員になつてゐる教区の推進員を担当して欲しい旨の話がありました。当時は教区の常置委員と婦人専門委員長のつとめ、教会

役員のつとめなど奉仕が重なつていたことから少し躊躇がありました。教区のつとめは24年度で終わることから見通しが立てられ、お引受けしました。教会では献金を年金局に送金する係をしていましたので、毎号「よろこび」は読ませて頂き、いつも心には温かく響くものがありました。

7月18日に新任推進員の研修会があり、この運動の基本的な姿勢を学びましたが、「祈り」と「信徒運動」を「きも」に、主に用いられることを感謝して推進員の一員とさせて頂きます。

（しんじょう　たづこ）
／静岡草深教会

「推進員となつて」
東京教区南支区推進員
鶴田 真希
2024年12月より推進員
をお引き受けしています。教

会では100円献金の集計を担当してはいますが、研修会に出席してこの運動の役割や機構などをより深く知ることができました。運動の発端となつた、苦境の中に召された牧師のお話は以前なにかで耳にして印象に残っています。



鶴田 真希さん

に生涯をささげられた教師の方々を、信徒一人一人が支え祈りを合わせていく大切さを広められればと願います。この運動を理解していただき実際に協力を願い各集会などでアピールする機会を得たいと思いました。多くの事を考えさせられました研修会を企画して下さった皆様に感謝いたします。

（つるた　まき／柿ノ木坂教会）

—近況をお寄せください—

毎秋の年金特集では、前年度内に受給者となられた先生方に近況をお寄せいただいておりますが、この度は、受給者のみなさまの近況を募集いたします。

いただきましたおたよりは、順次「よろこび」にご紹介していくたいと考えております。

業務室より

一年金を受けている方へ 年金給付のお知らせ

10月の定例給付のご案内をします。

送金内容 2025年度第2期分給付(2025年7・8・9月分)

送金日 2025年10月10日(金)
期日に、ご指定の金融機関に入金され
ていない場合は、ご連絡ください。

次回送金 2025年12月10日(水)

受給者・配偶者の異動(逝去、婚姻等)
及び、連絡先・振込先の変更は、
できる限り早めに、書状、Fax、e-mail
の何れかで、年金局までお知らせく
ださい。

☆2025年版「受給者名簿」を同封いたし
ます。正確を期したつもりですが、誤り
などございましたらお知らせください。
この名簿は受給者の交わりにお役立て
いただくことを目的として作成しているも
のですが、その扱いについては賛否ござ
います。2025年版を最後に、2026年か
らは希望される受給者の方にのみお送り
いたします。1月にお送りします現況届
に意思表示をいただく項目を設ける予定
です。その時期になりましたら改めてお
知らせいたします。

なお、不要になった名簿の処理にお困り
の場合は、年金局までお送りください。

☆7月10日の定例給付日には、教師退職
年金、キリスト教教育主事退職年金、遺
族年金を合わせて、約1億7百万円を
703名の方々にお送りいたしました。

☆6月19日(木)～20日(金)に第43
総会期第2回年金局理事会が開催され
ました。出席者は対面、オンラインを合
わせ30名でした。2024年度事業報告
ならびに決算、監査報告、2026年度財
務計画が承認されました。また、各委員
会、各教区報告がされました。2024年
度は2017年度以降減少が続いた給付が
増加に転じ、掛金収入は減少となり
ましたが、隠退教師を支える運動からの
繰入金と運用益により収支は約33百万
円のプラスとなり退職年金に積み増すこ
とができるようになりましたが報告されました。
年金制度が守られ続けていることに感謝
です。

☆常任理事として長年にわたりご奉仕くだ
さいました中林克彦氏が7月末に神様の
み許に召されました。そのお働きを覚え
感謝とともにご遺族の上に主の慰めをお
祈り申し上げます。

☆今号では、三枝道也先生、三枝育代先生
ご夫妻に原稿をお寄せいただきました。
原稿依頼のお電話を差し上げた際には、
とてもお元気なご様子で嬉しくなりま
した。ご協力いただきましたご家族の方に
も感謝です。

☆連日の猛暑に加え、大雨による災害の
ニュースに心を痛める夏でした。まだま
だ暑さは続くようです。どうか体調を崩
されませんように、また被害が広がらぬ
ようお祈りいたします。

(本田由紀子)

日本基督教団年金局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18-31
Tel:03(3202)2080 / Fax:03(3202)2081
mail:nenkin@uccj.org
「隠退教師を支える運動」推進委員会
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18-31
Tel:03(3232)8005 / Fax:03(3202)2081
mail:sasae100@uccj.org